

世界アルツハイマーデーに寄せて、厚生労働大臣からメッセージが届きましたので紹介します。

2015 年度「世界アルツハイマーデー」に寄せて

厚生労働大臣 塩崎 恭久

2015 年度「世界アルツハイマーデー」に当たり、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

国際アルツハイマー病協会が 9 月 21 日を世界アルツハイマーデーと定めてから本年で 22 年目を迎え、この間、世界各国で認知症への理解の促進と本人や家族への支援の充実を目指した活動が広がってきました。

わが国でも、本年結成 35 周年を迎えられた「公益社団法人認知症の人と家族の会」が中心となって、認知症という病気の正しい理解やケアの向上、サポート等を社会に広く呼びかけてこられました。高見代表理事をはじめ、関係者の皆様のご尽力に対し、深い敬意を表する次第です。

わが国では、2025 年には認知症の方が約 700 万人前後、高齢者の約 5 人に 1 人になると見込まれています。認知症は誰もが関わる可能性のある身近な病気であり、認知症施策は国をあげて取り組むべき喫緊の課題となっています。本年 1 月には、政府一丸となって認知症の方の生活全体を支えるため、「認知症施策推進総合戦略」(新オレンジプラン)を策定しました。認知症の方ができる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し、関係省庁と連携しながら取組を進めていきます。

新オレンジプランでは、これまでの認知症施策はともすれば認知症の方を支える側の視点に偏りがちであったとの観点から、「認知症の方ご本人やそのご家族の視点の重視」を、全体を貫く横串の柱として掲げました。引き続き、新オレンジプランに沿って、医療・介護専門職による「認知症初期集中支援チーム」の設置や、認知症の方やそのご家族、医療・介護専門職や地域住民が気軽に集まれる「認知症カフェ」の普及などを進め、認知症の方やそのご家族の支援を進めていきます。

これらの取組を推進していくためには、「認知症の人と家族の会」をはじめとする関係団体等と連携していくことが重要と考えています。今後とも、皆様方の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、認知症の方やそのご家族の皆様のご多幸と、関係団体の皆様のご多幸を祈念して、私のお祝いの言葉といたします。